

「共に学ぶ場」づくり インクルーシブな学びのニーズに応じて

共生社会の実現に寄与するため、都教育委員会が令和6年2月に設立したインクルーシブな学び東京コンソーシアム(以下、「コンソーシアム」という)では、障害のある人もない人も共に学べる環境づくりを目指し、参加団体と連携・協働しながら、インクルーシブな学びに関わる様々な取組を実施してきました。

コンソーシアム参加団体との連携・協働により様々な

事業を実施することが可能となったとともに、コンソーシアム参加団体間の交流により、連携が進んできました。

今年度も引き続き、障害の有無に関わらず、共に学べる場づくりを目指しています。今号では、新たに取組を始めた大学生世代の若者同士の交流を伴った学びの場づくりについて御紹介します。

コンソーシアム設置後の展開

参加団体との連携による
取組の拡大

「学びの場」に関する
意見交換の積み重ね

令和5年度	令和6年度	令和7年度
2月 コンソーシアム設立 第1回コンソーシアム総会開催 参加団体 18団体 (年度末時点)	第2回コンソーシアム総会開催 参加団体 28団体 ↑ (年度末時点)	第3回コンソーシアム総会開催 参加団体 33団体 ↑ (2月末時点)
第12期 東京都生涯学習審議会建議 「地域・社会とともにある都立学校を目指して —都立学校公開講座の在り方を中心に—」	コンソーシアム参加団体と連携し、インクルーシブな都立学校公開講座(※1)を都立特別支援学校で実施 4講座 コンソーシアム参加団体と連携し、都民を対象にした研修を都立特別支援学校で実施(手話講座など) 2講座	8講座 ↑ 4講座 ↑
令和5年度の都民提案「心のバリアフリー実現のための 障害体験学習」を事業化にむけて準備	「インクルーシブな学び」体験プログラム事業(※2)開始 都立高校生対象	「インクルーシブな学び」体験プログラム事業 都立高校生に加え都立特別支援学校の児童・生徒へと対象を拡大
10月 共生社会コンファレンスとしてシンポジウムを実施 テーマ① インクルーシブな生涯学習活動を充実させるために必要なこと ～文化芸術活動を事例に～ テーマ② Z世代とつくるインクルーシブな交流の場	10月 テーマ インクルーシブ社会の実現を目指した学びへの取組	11月 テーマ 多様な人が共に学べる場づくりを目指して
		何を一緒に学びたい?大学生世代のお互いを知る交流会を開催
		学校卒業後の障害者の「学びの場」づくり開始 →P8

取組から見えてきた

課題

これまで障害者の方が受講する講座等では、障害者の方のみが受講者である場合や、障害者の方を支援する人との「支援する/される」の関係になっている講座が多く、立場を超えて学ぶインクルーシブな環境とは異なります。

そこで、「生涯学習や社会教育の場において、異なる立場の人々が交流を伴って参加者それぞれが学びを得られる場を作ること」が課題として見えてきました。

「共に学ぶ場」の
創出を目指して

※1 講座の詳細は「とうきょうの地域教育No.154」p.10～p.11に掲載しています。

※2 プログラムの詳細は「とうきょうの地域教育No.154」p.6～p.9に掲載しています。なお、本事業は令和6年度に都立高校生を対象に「インクルーシブ体験」プログラムとして開始しました。令和7年度からは、生涯学習の学びを体験し、学校卒業後も障害の有無に関わらず学ぶ機会があることを知ることや、就労や日常生活の時間とは異なる、生涯を通じて人々の心のつながりや相互に理解し合う機会を得ることを目的として、都立特別支援学校にも対象を拡大し、「インクルーシブな学び」プログラム事業として実施しています。



求められている、 障害者と健常者が 「共に学ぶ場」

障害者権利条約批准や障害者差別解消法制定等を背景に、学校教育段階でのインクルーシブ教育は全国で推進されていますが、障害者の方の学びのニーズは学校卒業後も引き続きあることが文部科学省の調査等によって明らかになっています。

今後増やしたい生涯学習の内容

障害者本人を対象に行った調査(自由記述)

一部抜粋

障害者、健常者が一緒に学ぶ機会

地域の人とのレクリエーション

おしゃべりをして、コミュニケーション力を身に付けられるような生涯学習の場

学校主催の卒業生向けの学習機会

大学・大学院での聴講・参加の機会

学校を卒業し何年経っても毎年集まれるような会

障害者の方を対象とした調査の自由記述では、「障害者、健常者が一緒に学ぶ機会」や「おしゃべりをして、コミュニケーション力を身に付けられるような生涯学習の場があるといいなと思う」といった意見が見受けられます。

障害者本人を対象に行った調査(複数回答)

健康の維持・増進、スポーツ活動	46.9 %
日常生活や社会生活に必要な知識・スキルに関する学習	46.9 %
スキルアップや資格取得など、職業生活に関する学習	46.5 %
余暇、レクリエーション活動	43.6 %
学校段階で学んだ内容の維持・再学習に関する活動	40.4 %
仲間づくり、コミュニケーション活動	35.6 %
文化芸術活動	33.6 %

令和4年度文部科学省
「障害者の生涯学習活動に関する実態調査～地方公共団体及び障害者本人を対象とした実態調査～」を
参考に作成

多様な活動が求められています。



「共に学ぶ場」をテーマに以下の取組を実施

contents

共生社会コンファレンス

- シンポジウム「多様な人が共に学べる場づくりを目指して」▶ p.4-5
- 「何を一緒に学びたい? 大学生世代のお互いを知る交流会」▶ p.6-7

新たな「共に学ぶ場」が始まりました

- 学校卒業後の障害者の「学びの場」づくり ▶ p.8-11

column

2050東京戦略 ～東京 もっとよくなる～

戦略9 共生社会

「障害の有無に関わらず誰もが輝ける社会の実現」



令和7(2025)年3月、東京都は2050年代に目指す東京の姿「ビジョン」を実現するため、2035年に向けて取り組む政策を取りまとめ、都政の新たな羅針盤として「2050東京戦略 ～東京もっとよくなる～」を公表しました。その中で、2050年代のビジョンとして、すべての「人」が輝き、一人ひとりが幸せを実感できる「成長」と「成熟」が両立した「世界で一番の都市・東京」を掲げています。戦略は3つの観点(ダイバーシティ、スマートシティ、セーフシティ)に大別され、さらにダイバーシティの観点では9つの戦略を示し、その1つに「共生社会」が挙げられています。

東京都教育委員会では、様々な機関やNPO、企業などの団体と連携・協働し、障害者の新たな生涯学習支援体制の構築を進めています。その一環として、シンポジウム「多様な人が共に学べる場づくりを目指して」を開催し、You Tubeによるライブ配信を行います。

11.1(sat) 17:00-18:30

多様な人が共に学べる 場づくりを目指して

⑧ 渋谷ヒカリエ 8F
8/COURT



オンライン配信



障害者権利条約の批准や障害者差別解消法の制定等を背景に、学校教育段階でのインクルーシブ教育の推進が全国で図られています。一方、障害のある方の学びのニーズは特別支援学校等卒業後も引き続きあることが文部科学省の調査等によって明らかになっていますが、障害の有無に関わらず学べる場は不足しているのが現状です。

また、障害者青年学級等の学びの場は、障害のある方が受講者である場合が多く、立場の違いを超えて学ぶといったインクルーシブな環境とは異なります。

そこで、今回のシンポジウムでは、生涯学習や社会教育の場において、障害の有無に関わらず異なる立場の人々が、その違いを超えて学ぶための環境の整え方や、学びの意義について意見交換を行います。

登壇者



敵本 彩美

認定NPO法人Hands On Tokyo 共同事務局長
特定非営利活動法人障害平等研修フォーラム理事

視覚障害がありながら普通校で学ぶ。留学、海外ボランティア、企業勤務、大学院を経て現職。様々な形でインクルーシブ社会の実現に取り組んでいる。



山田 小百合

NPO法人Collable 代表理事

知的障害・自閉症の兄と弟がいる経験から、障害の有無をこえたインクルーシブな場の学習に関心をもち、NPO 法人 Collable を設立。ミュージアムなどでインクルーシブデザインによる環境設計や人材育成などに関わり、その方法や考え方を届けている。



青山 鉄兵

文教大学人間科学部 准教授／(独) 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター客員研究員

専門は社会教育・青少年教育。東京大学大学院、桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部助教等を経て現職。中央教育審議会 生涯学習分科会 社会教育の在り方に関する特別部会委員。第 13 期東京都生涯学習審議会委員。特技は手話。



古市 理代

NPO法人ピープルデザイン研究所理事
NPO法人アクセptions理事長

ピープルデザイン研究所の事業である「りんごプロジェクト」のコーディネーターとして、アクセシブルな図書を広げる活動に従事している。読書に困難がある人も誰もが読書を楽しみ、情報にアクセスできる社会の実現を目指している。近年は、学校や公共図書館での「読書バリアフリー体験会」などを通じ、子どもたちが多様な形で本と出会う場づくりに力を入れている。

※ シンポジウムは事前申込み不要、参加無料です。会場の座席には限りがございますので、あらかじめご了承ください。

※ ご希望の方は座席の事前予約が可能です。

各シンポジウムのオンライン配信のQRコードのページの「座席予約」(peatixのサイト経由)でお申し込みください。

※ 各シンポジウムのオンライン配信のQRコードからライブ配信、ならびにアーカイブ映像をご覧いただけます。

※ 会場では手話通訳、シンポジウムのライブ配信とアーカイブ映像には字幕がつきます。

※ ご参加、ご視聴にあたり配慮が必要な方は、事前にお問い合わせください。



「何を一緒に学びたい？」 大学生世代のお互いを知る交流会」

実施日 令和7年11月1日

場 所 渋谷ヒカリエ 8F 8 / COURT

今年度の共生社会コンファレンスではシンポジウムだけでなく、「大学生時代のお互いを知る交流会」も実施しました。

背景として、学校から社会への移行期である障害のある若者は、同世代の若者との交流の乏しさや、学びの機会が少ない現状があります。

また、共生社会を目指し、インクルーシブな学びの場をこれからの若い世代とともに作りあげるためには、何より障害の有無に関わらず若者同士の交流を伴った意見交換が欠かせません。

そこで、この交流会では障害のある若者と現役大学生との交流の場を設けて、「インクルーシブ」や「共に学びたい内容」等についてお互いに意見を出し合い、考えていく場としました。

楽しい対話やワークショップを通じて、普段なかなか触れ合うことができない方々との交流を深めてもらい、インクルーシブな学びが広がるためのきっかけづくりを提供しました。

はじめに(アイスブレイク)

今回集まった若者のみなさんは初めて出会ったばかりです。すぐに打ち解けるのはどの世代でも難しいかもしれません。そこで、ワークショップの前にアイスブレイクを行いました。

アイスブレイクではグループごとに①自己紹介(名前、年齢など)、②自分が得意なこと、苦手なこと、③昨日の晩ごはんは何だった?という3つについて質問し合うことで緊張を解きほぐしました。

そして、アイスブレイクの最後には交流会で楽しみなこと、交流会で不安なことをお互いに話し、コミュニケーションを進めていきました。

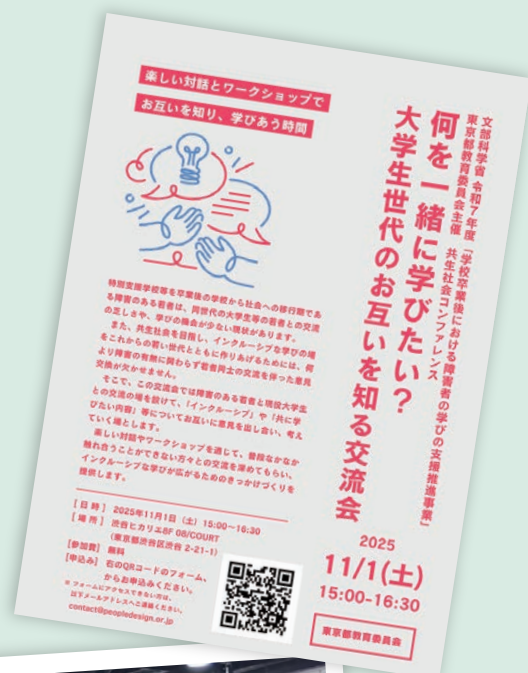
展示・体験で

一緒に「超福祉の学校」を楽しもう!

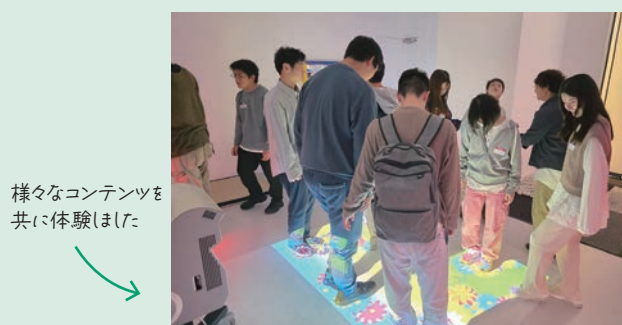
今回の交流会はNPO法人ピープルデザイン研究所主催のイベント「超福祉の学校」の中で開催しました。ここではシンポジウムだけでなく「超福祉の図書館@SHIBUYA2025」(※3)を毎年開催しています。これは、公園・図書館・美術館・博物館などの公共空間を混在させた、全く新しいインクルーシブな“室内型公共空間”のあり方を提示したもので、インクルーシブ遊具・図書・テクノロジー・アート・音楽などを、みて・きいて・ふれて、体で感じて、誰もが混ざりあい、遊びと学びを楽しめる体験型展示空間です。

企業やNPO等が出展し、インクルーシブ遊具・図書・テクノロジー・アート・音楽など多種多様なコンテンツを通じて、視覚・聴覚・触覚に加え、固有受容覚(体の位置や動きを感じる感覚)、前庭覚(体の傾きや動きを感じる感覚)を刺激し、五感を適度に刺激する“超福祉”な「センサリールーム」となっています。

交流会では、この展示を参加者が共に体験することを通して、よりコミュニケーションが進み、いろいろな感想を持ちました。



企業・NPO等が
それぞれのコンテンツを
展示しています



様々なコンテンツを
共に体験した

※3 展示されたコンテンツの詳細内容については以下のページを御参照ください。
<https://peopledesign.or.jp/school/event/>



いま
学びたいと
思っていること

勉強して
みたいこと

を書いてみよう

共に展示を鑑賞し、様々なコンテンツを体験してコミュニケーションが進んだ後、グループごとにお互いに話し合いながら、自分のやりたいことを書き進めました。

※「ペア」になって体験、振り返りを行いました。

自分が勉強してみたいことを
実際に書き出しています



活発なコミュニケーションが
交わされました



書いたものを発表しよう！

最後に、書いた内容をグループごとに発表しました。会場は終始、穏やかで活気に満ちた雰囲気でした。90分間という短い時間の交流会でしたが、この短い時間でも参加者はそれぞれの学びや気づきを得たようです。

以下で、参加者の感想と、障害者の方の同行者（おもに保護者）の感想を掲載します。



参加者同士が打ち解けて意見交換をしました

参加者の感想（一部抜粋）

- 共通の話題や一緒に体験したこと等があると心の距離が近くなると感じた。交流会が会話するだけではなく、「展示を一緒に見る」という機会があることは共に学ぶ上で大切でとてもよい時間だと感じた。
- 障害があるから、と気にし過ぎてしまうとお互いの勉強や学びにならないので、いい意味で気にせずにラフに楽しむ姿勢を大切にしていこうと思った。

- 大学生とあまり触れ合ったことがなかったけれど、大学生の人が優しく接してくれたので、とても楽しかったです！目の見えない方や耳が聞こえない方の配慮していただいてとても安心しました。
- 大学生とお話して話が合う部分が多くいろんなことを話せました。とても楽しかったです。ご飯やドラマなど一緒にのものがとても多くて楽しかったです。

同行者の感想（一部抜粋）

- どちらかがお客さんとなる場はたまにあるがフラットに出会えない（特に発話がないとコミュニケーション不可となりやすい）ので、このような交流会は良かった。
- 障害のある子の多くは高等部卒業後すぐに就労します。まだまだ色々なことを学ばせたいですし、経験させたいと思います。

緊張した面持ちで始まった交流会でしたが
90分後には参加者全員、
笑顔であふれました

